

518 心筋ファントム実験による診断能からみた投与量・撮像時間の最適化-医療放射線被曝合理的低減のために-
中村元俊¹, 古賀佑彦¹, 西村哲浩², 近藤 武³, 安野泰史³,
立木秀一³, 江尻和隆³, 前田壽登³, 外山 宏¹, 竹内 昭³
(藤田保健衛生大学 医放¹, 病院放², 衛放技³)

心筋ファントムを用いて診断能からみた核種投与量・撮像時間の最適化について検討した。京都科学社製心筋ファントムにプラスチックで4種類の欠損パターンを作り、9.69 MBqの²⁰¹Tlを注入して前後方向のプランナー像を撮像した。ダイナミック撮像の方法で8段階の撮像時間の画像を得、10名の放射線科医により欠損部位の診断を行った。投与量を加味した時間を横軸に、正診率を縦軸にとり検討した。正診率は撮像時間とともに上昇が認められ、この曲線は約2-3分でプラトーに達し、これが最適の撮像時間と考えられた。各施設でこの最適化を行えば患者被曝を合理的に低減できると考えられた。